

日 時 平成20年9月14日 午後3時36分キックオフ（小雨）

会 場 生目の杜多目的グラウンド（天然芝）

相 手 OKI

結 果 0-1（0-0、0-1）

内 容 惜敗

今回はリーグ第6戦。ここまで4勝1敗と3つ勝ち越し。相手は沖電気。今回初対戦の様。攻撃型のチームで若い選手も多く、厳しい試合になることが予想されたが、今のフェニックスなら勝機は十分あるはずである。試合前に、ドリブルのうまい6番に注意するよう確認した。一方フェニックスは、13名とメンバーが少なめ。無駄に体力を消耗しないこと、DFラインはいつも通り高めに保ちつつも守備的に試合に入るよう指示があった。また、左サイドは、MF、DFに児玉（好）、谷口を据え、超攻撃的布陣で臨むことになった。

というわけで、早速試合開始。しかし、今回は負け試合のため、レポート作成のモチベーションがなかなか上がらない。が、10万人の読者のために頑張れ久保野！！冗談はさておき、開始から五分五分の展開で試合が進む。沖電気は、予想通り攻撃に人数を割いてきたが、フェニックス DF の粘り強いディフェンスでしっかり対応する。中盤は互角。しかし、相手のチェックが早く、ここ数試合のような余裕をもった展開がなかなかできず、スループス狙いの単調な攻めが中心となった。

そして、前半11分、右MFの越智が右サイドを抜け出しゴール右からシュートを放つも、惜しくも枠外に。また、前半20分、児玉（好）が中央からミドルシュートを放つもバーに嫌われ、跳ね返りに大介が詰めるも、詰め過ぎてタイミングが合わず、ヘッドは枠外に、。前半は、互いに決定機をあまり作れず、互角の展開であった。

後半もメンバー交代なしで臨んだ。後半も互角で始まったが、攻撃陣はなかなかサイドを崩せず、スループスを狙うもオフサイドにかかりまくり、たまに中央のパス交換からミドルシュートを放つも、決定機とまではいかず、工藤、牧を途中交代で投入するも、なかなか得点を奪えない。一方沖電気も、フェニックス DF 陣に押さえられ こう着状態が続いた。しかし、次第にフェニックス陣内でのプレーが多くなり、後半20分には相手 FK がバーを直撃するなど、守勢にまわりつつも粘り強く対応していて迎えた後半ロスタイム、一瞬の隙を突かれ、沖電気が上げたクロスが逆サイドのフリーのFWに渡り、あっけなく失点。その後、最後の猛攻を仕掛けるも時既に遅し。0-1で敗戦となった。

今回の試合は、フェニックスらしく粘り強く戦いましたが、攻守がいまひとつかみ合わず、決定機をなかなか作れませんでした。展開は五分五分だったものの、沖電気の運動量と気迫が最後まで落ちず、攻撃に人数を掛け続けた相手に軍配が上がったといったところでしょう。こういう試合こそ、セットプレーからの得点が欲しいところでした。しかし、まだ4勝2敗。次節は若者の宮大。元々失うものは何もないので、DFラインはガンガン上げ、攻撃はワンツーからサイドを崩して、勝機を見いだしていきましょう！

参加者

<先発>

FW（黒田、渡邊）

MF（児玉（好）、渡部、赤野、越智）

DF（谷口、三井、久保野、久保）

GK（谷之木）

監督等 那須、高妻

<交代>

DF（工藤）後半10分（久保に代わって出場）

DF（牧）後半20分（児玉に代わって出場）